

平成28年度研究功労賞推薦書

受賞対象者 田中 達也 先生

田中達也先生は、昭和44年（1969）3月に九州大学医学部を卒業され、九州大学脳神経外科に入局されました。九州大学脳神経外科学教室初代教授の北村勝俊教授のご指導のもと、初期臨床研修終了。昭和47年から松岡成明助教授の神経生理学グループに所属し、慢性猫のキンドリングの研究を開始されました。昭和48年度のフランス政府国費留学生の試験に見事合格され、マルセイユ大学 Henri Gastaut 教授にフランス語で、「てんかんの基礎的研究をご指導願いたい」とお手紙をだされたところ、Gastaut 教授の高弟の Robert Naquet 教授にご紹介いただき、1973年に、Paris のフランス国立中央科学研究所に留学されました。フランスに初めてキンドリングモデルを紹介され、photosensitive baboon Paoio papio と慢性猫、慢性ラットを用いた実験でてんかんの研究を精力的に行われました。このときの研究で、焦点発作から2次性全般化発作に至る、臨床発作のマーチと深部脳波と皮質脳波の相関に興味を持たれ、当時神経生理学で最も権威のある *Electroencephalography and Clinical Neurophysiology (EEG Journal)* に成果を発表されました。1975年に帰国され、1977年から旭川医科大学脳神経外科の講師に就任されました。しかしながら、てんかんの基礎研究で発作伝搬経路を解明されたいとの熱烈な思いから、その延長で、1980年より再度 Paris に留学され、カイニン酸局所注入モデルを用いて、焦点発作の発作伝搬経路を研究されました。1981年に帰国された後も、慢性猫、慢性ラットを用いたてんかんの基礎研究を継続されました。さらに Naquet 教授からてんかんの外科治療の主流は、モントリオールであるのご教示頂き、同教授のご紹介で、1987-1988年に、てんかんの外科治療の最先端治療を誇っていた、マギール大学附属モントリオール神経研究所 (MNI) の脳神経外科部門に留学され、Andre Olivier 教授に最先端のてんかん手術のご指導を受けられました。同時に、Naquet 教授の親友の、Pierre Gloor 教授との親交も始まり、これまでの実験でてんかんの研究成果について、たくさんの批評とご助言をいただいたと伺っております。帰国後、MNI の脳神経外科で導入されていた、Neuronavigation System (Viewing Wand System) を、旭川医科大学脳神経外科に日本で初めて導入されました。てんかんの外科手術や、脳腫瘍の摘出術に応用されましたが、てんかん手術の発作改善に非常に有用で成果をあげられました。1997年旭川医科大学脳神経外科教授に就任。医局の、神経生理班の若手研究者と共に、ライフワークである、焦点てんかんからの発作伝搬と、てんかん発作の発展を阻止する発作伝搬の遮断について多くの基礎的なてんかん研究成果と、それに基づくてんかん外科治療についての臨床研究を発表されたことは皆さまもよくご存じのとおりであり、学術集会の場においては熱い討論を交わされ、正に leader として我々を牽引して下さいました。さらに、国内の関連学会の会長を務められ、旭川で多くの学会を成功裡に開催されました。2007

年教授退職後、鹿児島はやまびこ医療福祉センター名誉院長に就任され、現在に至っておられます。これまでに発表した英文論文は 100 篇以上、和文を合わせると 200 編以上で、学会活動は、北海道てんかん懇話会会長 (1988-2009)、日本てんかん学会理事長 (2003-2007)、国際的にも、大変人望も厚く“Tatsu”の呼称で皆さまから親しまれ、International League Against Epilepsy (ILAE)において、ILAE 副理事長を連続 2 期務められています (2009-2013、2013-2017)。また、ILAE 関連委員会では、2009 年より、ILAE 定款改定委員会の委員長を務められ、長い間改定されていなかった ILAE 定款を、Solomon Moshe 理事長と共に、現在の世界情勢に合わせた大改訂を完成させられました。この他、アジア・オセアニアてんかん学会では、ILAE 職権担当理事、アジアてんかん外科学会では、名誉顧問を務めておられます。現在も、ILAE 副理事長の職責による、毎年数回の海外出張を精力的にこなされ、多忙を極めておられます

受賞歴は、1983 年日本てんかん学会賞 (J. A. Wada 奨励賞)、1998 年度北海道医師会賞・北海道知事賞受賞、2010 年アジア・オセアニアてんかん学会特別功労賞、2011 年日本てんかん学会特別功労賞があります。

てんかんの基礎から臨床まで全身全霊を傾けて研鑽してこられ、さらに日本のてんかん学会の存在レベルを国際的にもひきあげてくださいました田中達也先生が、この栄えあるてんかん治療研究振興財団研究功労賞の受賞候補者に指名されたのは遅すぎた感がありますが、日本てんかん学会会員にとっても名誉なことであり、ご推薦申し上げます。

東京女子医科大学 名誉教授
日本てんかん学会代表理事
大澤眞木子